

## シナネンホールディングス(8132)

# シナネンHD

## 創業100年向け経営基盤整備

## 脱化石燃料の多角化事業に注目

シナネンホールディングス(8132)はLPガスや灯油などの燃料販売大手で、卸、小売り双方を手掛けている。1927年創業の老舗。「エネルギーと住まいと暮らしのサービスで地域すべてのお客様の快適な生活に貢献する」を経営理念に掲げている。

全国に灯油中継基地を展開し販売店との関係を強化。取扱量は国内流通量の約9%になる約130万キロリットルに上る。LPガスの顧客は直売、卸売り合わせて約90万軒。取扱量は約50万トンで業界3位。近年は事業の多様化を進め、自転車事業、環境・リサイクル事業、抗菌事業など多彩な事業を国内外で展開している。

### 燃料“プラスアルファ”で利益拡大

1月29日に開示した2021年3月期第3四半期(20年4~12月)決算は売上高1389億6900万円(前年同期比11.8%減)、営業利益16億1500万円(同4.7倍増)。通期の業績は売上高2260億円(前期比4.7%減)。営業利益22億円(同10.4%減)を予想している。配当は前期と同じ75円の見通し。

新型コロナウイルスの影響で春先に原油価格等が大きく落ち込んだことによる販売単価の下落が減収要因となったが、秋口以降、販売単価は回復基調にある。

セグメント別では、「エネルギー卸・小売り周辺事業」(BtoC事業)は灯油、LPガス販売のほか、水回りのリフォームなど住まいの事業も手掛ける。当期は、夏の平均気温が平年より高かったことに加え、飲食店向けのLPガスの需要も減り、販売数量は低調だった。一方、利益面は東日本エリアを中心に差益が改善し、赤字幅が大幅に縮小した。

大口向けの「エネルギーソリューション事業」(BtoB事業)はコロナ禍で産業用エネルギーの低迷はあったものの、寒波の到来とともに需要が増加。前年同期を上回る販売量となった。また、利益面も原油市況の変化に対応した仕入れ施策が貢献。電力事業では契約電力量が伸びたうえ、電源構成の最適化による原価低減も奏功した。

「非エネルギーおよび海外事業」は抗菌事業で北米のマスク向け抗菌剤受注が大幅に拡大。シェアサイクル事業の自転車数・ステーション数の増

加もあり、事業全体で増収となり、黒字転換となった。

#### 創業100周年・グローバル化への準備着々

20年度からは第二次中期経営計画がスタート。23年度から始まる第三次中期経営計画に向けた基盤整備を行うため、「グローバル総合エネルギーサービス企業グループへの挑戦」を掲げている。

定量目標としてはROE（自己資本利益率）6.0%以上。注目事業として、①韓国再生可能エネルギー事業、②新型マイクロ風車関連事業、③水回りリフォーム専門店事業、④シェアサイクル事業、⑤シェアオフィス「seesaw」事業——を掲げている。社会的に脱化石燃料による環境配慮型経営が求められる中、27年の創業100年に向けて、こうした事業の進展が注目される。画期的な新商品の投入に加えて、当社では原料の改良など既存商品についてもリニューアルを絶えず行っており、これがリピーターとの強い信頼関係、高い継続率につながっている。